

4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	衣料品専門店（経営者）	・これから寒さに向かって年間で一番売上が見込める時期に入るため、また、近郊の同業者が減ってきて新規客が増えつつあるため、期待している。
	やや良くなる	百貨店（営業企画担当）	・歳暮商戦やクリアランスでの来客数増を見込んでいる。また、カード会員向けの特別対策を盛り込んでいるため、売上増に期待したい。
		スーパー（店長）	・夏と同じで特に節電関係、家の中で過ごす商品あるいは食品といった冬物商材が、今後2、3か月で動きが良くなる。ただし気温次第になるので、冬らしい冬がくれば、売上あるいは景気が良くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・客との会話で旅行の予定等が非常によく出てくる。おしゃれ物を扱っている関係上、接客が多いが、このところ接客に対する反応がとても良く、売上も良いため、今後もやや良くなっていく。
		家電量販店（経営者）	・前年11月はエコポイント効果が最大になり、異常値を示していた。12月以降は回復に向かう。
		乗用車販売店（経営者）	・円高が心配だが、国内販売は徐々に上向きになってきている。
		乗用車販売店（販売担当）	・前月同様、新型車導入のおかげで受注も伸びている。また、これから12月に開催されるモーターショーの話題もプラスになって来客が増え、商談数も増えていく。
		その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・最繁忙期の年末になるので、しっかり気持ちも販売促進も盛り上げていく必要がある。良くなるために仕掛けていく。
		その他小売〔ゲーム〕（開発戦略担当）	・市場全体の変化に歯止めが掛かるわけではないが、今年は例年以上に大型タイトルが年末商戦に集中し、更に新ハードの発売もあるため、盛り上がりが見込める。
		一般レストラン（経営者）	・当商売は暮れは動きが活発になるため、売上は今よりも少し良くなる。
		一般レストラン（経営者）	・今月の前半は悪かったが、中盤から少し上向きになっている。ここまで悪くなれば後は上がるだけである。
		旅行代理店（従業員）	・円高は経済全体にとっては厳しく、引っ張り合いが続くが、観光旅行には追い風である。
		旅行代理店（支店長）	・当社の場合、グループで東京スカイツリー関連商品販売を始める。11月からは団体の受付も始まるので、スカイツリー効果だけではないが、非常に問い合わせ等が増えている。今後も来年の開場に向けて客からの問い合わせがかなり増えるだろうということが、一番の理由である。
		旅行代理店（営業担当）	・申込状況が以前より伸びている。
		タクシー運転手	・これから忘年会やクリスマスなどが入るので、当業界では一番忙しくなる時期である。
		通信会社（経営者）	・10月最終週からテレビの集合住宅一括契約が回復兆候にあり、2～3か月先の年末年始には顧客のテレビ意識も回復する。
		通信会社（経営者）	・東日本大震災以来の節約気分が払しょくされてきている。
		観光名所（職員）	・観光は生活の次である。旅客がかなり戻ってきたため、これから期待できる。
		ゴルフ練習場（従業員）	・来客数が増えており、以前よりゴルフやレクリエーションに参加する機会が増えているため、景気はやや良くなっていく。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・寒くなってくるため衣料品の買物客が増え、年末年始用の買物客も増える。
設計事務所（経営者）	・今までは気持ちの部分で悪さがあったが、言っても仕方がないことである。当所では新しいものがやや見えてきて、それに対する心構えができてきたような気がする。もっと頑張らなければと、周りがそうしていかなければならず、少し上向きのような感じがしている。		
住宅販売会社（従業員）	・東日本大震災後の慌ただしさも落ち着き、様子見していた客が動き始めたように感じる。物件供給側もエンドユーザーの様子を見ている間に土地の仕入を積極的に行っており、販売価格を抑えた物件供給が見込めるため、販売増につながり、景気はやや良くなる。		
変わらない	商店街（代表者）	・欧州の信用不安や行き過ぎた円高など、地域経済のはるかかなたでマイナスの報道が連日あり、復興財源の問題もあり、客に不安な色を感じる部分がある。	
	商店街（代表者）	・現在の状態ではとにかく良くなるとは言えない。	

商店街（代表者）	・現状の低迷した状態が続くが、今後4月からの子ども手当の廃止や身の回りの非正規従業員の比率の増加が足かせになるのではと危惧している。
商店街（代表者）	・客の購買意欲がかなり減退してしまっている。景気の先行き不安が大前提にあり、その結果、買物を少し控えていこうという感じをかなり強く受ける。
一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・11月もまとまった注文等が入っており売上が見込めそうだが、年末年始にかけてはまだ不透明な部分が多い。今後どうなるか、不安材料がまだまだ残っている。
一般小売店〔酒類〕（経営者）	・毎日が開店休業のような状態であり、回復する気配がない。
一般小売店〔米穀〕（経営者）	・年末のお餅の注文がどうか心配しているが、昨年より値上がりしても変わらない。
一般小売店〔文房具〕（経営者）	・今月の状態はそれほど際立って良いわけではないので、このままこの調子が続き、変わらない。
一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・今月は非常に良かったため、この状態が2、3か月後も持続する。
一般小売店〔文具〕（販売企画担当）	・現在、客の会社の倒産等が始まっているが、その数はこれからそう多くはならない。今が相当悪い状態であり、これより悪くはならないため、変わらない。
一般小売店〔茶〕（営業担当）	・放射性物質が規制値以下であっても、卸売先から昨年度産を求められたりと、風評被害が続いている。
百貨店（売場主任）	・消費に慎重な傾向であり、株安、円高等で年末ボーナスの期待も薄いため、必要とする物の消費のみである。
百貨店（総務担当）	・売上は前年を多少上回る状況が続いており、この傾向がしばらく継続する。
百貨店（総務担当）	・円高やタイの洪水被害、あるいは東日本大震災対応を含めて、景気が上向き要素があまり見当たらないなかでは、それほど大きな改善は見られない。
百貨店（総務担当）	・原因がどこにあるのかを確認して対策を打つ必要があるが、現在まで確固たるものが出てきていない。自然に売上が伸びるとは考えづらく、当分は厳しい状態が続く。
百貨店（広報担当）	・景気を上向きにする要因が全く見当たらず、東日本大震災の買い控えは治まったように見えるが、別の要因で顧客の不安な心理状態は回復されないままである。購買行動も慎重にならざるを得ない環境にあり、近い将来の景気浮上は全く期待できない。
百貨店（営業担当）	・婦人服、紳士服のファッション関連は気温の低下と共に秋物や冬物が売れているが、美術品、時計、宝飾品の動きが悪い。円高、株安の影響はしばらく続く。
百貨店（営業担当）	・百貨店の婦人服は天候で売上が大きく左右されるなど、環境と次第な所もあるが、上昇しない一番の理由は不安感である。衝動買いをしない状況は厳しい。不要不急な物は購買から外れ、店頭にも足を運ばない状況が続く。
百貨店（営業担当）	・円高による景気悪化、雇用不安が報道されるなか、ますます消費者の財布のひもは固くなる。特に年末に向けて、歳暮、クリスマス商戦が始まるが、法人関連の需要が少なくなる。また元来中食と言われる食料品に強みがあったが、近年はネット環境、物流環境の整備により、店舗に買いに行かなくても手に入る状況であり、東日本大震災後その利用率が高い傾向にある。そういった別業態の脅威の影響も受ける。
百貨店（販売管理担当）	・食品の放射能汚染問題の影響が長引いていることに関する懸念材料はあるものの、ウォームビズ関連商材の新規需要が期待できることから、プラスマイナスで見ると大きな変化はない。
百貨店（営業企画担当）	・年金の見直しや増税の議論などの話もあり、売上が伸びていくような力強さは感じられない。
スーパー（経営者）	・現在のあまり良くない状態がこの先も続いていく。当社固有の理由としては、競合店がこれから出店するため、更に競争が激しくなって非常に厳しくなる。なかなか良い方へいくような感触はない。
スーパー（店長）	・食の安全に対する客の不安感がやはりある。食品の放射能汚染問題の影響により、客が非常にシビアに産地をチェックしながら購入している様子を見ると、これが解決しないとなかなか良い形に表れないという気がする。例えばお米なども特売を打つが、産地で客は判断するため茨城、福島のお米は非常に売れていない。現段階では3か月後の景気は今と変わらない。

スーパー（総務担当）	・東日本大震災からのダメージ、買い控えについては終わったと思うが、今後に向けての増税や円高、世界経済の情勢から、なかなかお金を使いつらい、欲しい物を買いつらい、必要な物しか買えないというような状況がある。
スーパー（営業担当）	・年金制度の行く末によって自己防衛感が強まる可能性があり、特に制度改定により、相当景気が左右される。
スーパー（仕入担当）	・相変わらず競合店も含めて価格訴求が継続されているため、少しの差額であっても客が購買する状況にない。物産物や駅弁等、価値訴求による単価アップと併せて売上の維持を図っている状況である。
スーパー（仕入担当）	・タイから輸入している商材は多く、タイの洪水が長引くと輸入量が少なくなってしまう。また、中国へのオファーが集中し、品不足と価格が高騰している。
コンビニ（経営者）	・高品質な商品と安価な商品の二極の売上が伸びているが、売上総額としては伸び悩みが続く。
コンビニ（商品開発担当）	・カテゴリーによって開きがある。また、店舗からインターネット通信販売への流れはかなり拡大傾向にある。
衣料品専門店（店長）	・東日本大震災の復興需要、節電のための保温素材など、実用品は追い風になってきており、年末までは現状くらいを維持できる。春夏は当初予想されたトレンド方向ががらりと変わったため、今後の節電ムードが過度になってくると流行の購買意欲が薄れてトレンド系衣料の方向が変わってしまう恐れはある。
衣料品専門店（営業担当）	・災害支援のための増税や年金の支給年齢引き上げに関する議論等、小売業にとっては良い話がまるでなく、大変厳しい状況である。
乗用車販売店（経営者）	・世界的な状況を不安視している客もおり、今より良くなるとは思えない。
乗用車販売店（販売担当）	・景気は東日本大震災後、やや持ち直していると思われているが、原油の高止まり、円高といった外部的な要因のもと、なかなか国内景気が上がらないのであれば、今後数か月間は変わらない。車関係は3月の震災後、なかなか生産ができなかったが今期は落ち着き、需要のある物に対して車を出しているため、販売台数、登録台数については増えている。景気としては伸びているものの、今後はこの伸びに対して期待感が持てないため、変わらない。
乗用車販売店（渉外担当）	・今までの受注残により新車登録が進み、実績は良くなっている。ただし、新車契約はエコカー購入補助金が終わって悪かった前年を上回ってはいるが、思うように伸びていない。世界経済の不安定が影響しているのか、エコカー減税はあるものの、この先も不透明である。
乗用車販売店（営業担当）	・12月の歳末商戦というが、客とメーカーの意識には大きな差がある。来年のエコカー減税の終わりなどを周知させ、購買意欲をかき立てて欲しい。
その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・年末に向けた商品の早割等の企画もやっているが、伸び悩んでいる。
その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・円高の進行、増税や年金受給年齢の引き上げに関する議論が取り沙汰されており、先行き不透明感が払しょくされておらず、厳しい状況が続く。
高級レストラン（店長）	・前年の予約状況から判断して、変わらない。
高級レストラン（支配人）	・円高や欧州の信用不安により、当社利用企業のなかにも影響が出始めている所がある。企業によってかなり格差があるが、先行きにあまり明るい見通しは持っていない。
一般レストラン（経営者）	・今後も今と変わらない。飲食店でも値下げばかりやっていた安い店は厳しいだろうが、当店みたいな4,000円くらいとある程度客単価がある店だと、それほど客が減ることは考えにくい。
都市型ホテル（支配人）	・この先2、3か月の販売量も今月と大きく変わらない。
都市型ホテル（スタッフ）	・依然として企業や一般社団法人、協会の宴会は単価減や参加人数減等で件数、人数共に増えず、売上も上がらない。また、婚礼は周辺の施設との競合に勝る材料に乏しく、大変苦戦している。地域の人々とのコミュニケーションを取り、地域のイベント等に積極的に参加して地域の宴席を取り込んでいくが、単価は上がらず、利益の出ない宴席を取り込んでいく状態が続く。
都市型ホテル（スタッフ）	・具体的な景気回復材料がないため、今後の見通しが付かない。
都市型ホテル（統括）	・原子力発電所の問題が景気回復を遅らせる。

タクシー（団体役員）	・契約顧客の多くが、今の円高の影響を受けて大変厳しい状況であるという話をしている。今でも必要経費の削減をしていると思うが、特に交際費や交通費の削減はしやすいため、今以上に厳しい営業環境が来る。
通信会社（営業担当）	・件数確保のためにはキャンペーン等の策を打たねばならず、収支を圧迫する。
通信会社（局長）	・増税の議論が不安要素としてのしかかっている。
ゴルフ場（支配人）	・年内は予約等でやっと前年並みとなっている。この間、料金の値下げを行わず、営業してきている。
パチンコ店（経営者）	・12、1月あたりは業界的には面白い機械が出て良くなるが、規制その他で販売促進、営業活動がなかなかしづらい。また客の財布のひもが少し固くなっていることもあり、今の状況とあまり変わらない。
その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（支配人）	・9月の下旬より、急激にジュニア層の来場者数が減っている。理由は不明だが、近隣のセンターも同じ様子である。今後は円高に対する消費マインドの低下が売上減につながる。
その他レジャー施設 〔アミューズメント〕（店長）	・落ち込みは下げ止まっているものの、ここから脱却を図る材料が市場環境に無く、特に客数に関しては現状の推移がしばらく続く。
その他レジャー施設 （経営企画担当）	・海外経済の減速や円高の進行が国内景気に及ぼす影響は懸念材料だが、足元景気の指標としている来客数について、今後の動向を推測すると当面大きく増減する要素は見当たらないため、今の状況が続く。
設計事務所（所長）	・何か大きな動きがない限り、零細関係は良くならない。
設計事務所（所長）	・民間の物件がすぐに決まるわけではなさそうなので、やはり良くなるのは来春以降ぐらいである。
設計事務所（職員）	・東日本大震災の影響による資器材の調達遅れ、がれき処理に掛かる職人コスト上昇など、じわじわと建設コストが上昇していると聞く。しかし、業界全体では大きく影響を受けない。
住宅販売会社（従業員）	・現在の状況を見ると悪くはならないと思うが、良くなるとも言いきれない。周りの話を聞いてみてもあまり良い話が出てこないため、変わらない。
住宅販売会社（従業員）	・東日本大震災後半年が経過して、客の動きにも大分落ち着きが見えてきている。
住宅販売会社（従業員）	・受注残が多少増えつつあるので売上は前年を上回るかもしれないが、契約は目新しい動きが見当たらないため、このまま横ばいである。
その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・欧州の信用不安、タイの洪水の影響、円高の問題等で長期的に見ればプラスの材料はないと思うが、ここ2、3か月に限って言えば若干持ち直してきており、このトレンドが続く。
やや悪くなる	
一般小売店〔茶〕（経営者）	・東日本大震災や福島第一原子力発電所の事故による食品の放射能汚染問題の影響で、お茶の需要が伸びず、売上も低迷する。
一般小売店〔茶〕（営業担当）	・自動給茶機の使用再開をしない会社がまだまだあるが、さらに給茶機を使用せず今後返却したいという会社まで出てきているため、やや悪くなる。
百貨店（営業担当）	・ドル安からくる円高や製造業の海外拠点であるタイの洪水等、大手企業の業績悪化が予想されるなか、消費者の自粛心理が働き、消費が冷える。
百貨店（営業担当）	・消費者の購買意欲が上向く材料が全く見当たらない状況のなかで、景気が上向くことは考えにくい。
スーパー（店長）	・年末やクリスマスでの一時的な需要は見込めても、普段の生活は以前と比べて何ら変わりはない。更なる価格競争により同業他社の体力も消耗してきているため、以前より厳しくなる。
スーパー（店長）	・年金の支給年齢又は増税の話など、将来における不透明感が買い控えや低価格の買いなどに結び付く。
スーパー（ネット宅配担当）	・円高とタイの洪水被害による製造業の業績悪化が避けられないなか、消費は確実に冷え込む。また、国内では物価の下落も想定され、当面は厳しい状態が続く。
コンビニ（商品開発担当）	・長引く東日本大震災の問題や円高、政治の停滞など明るい材料がほとんどなく、消費マインドの改善につながると思えないため、やや悪くなる。
衣料品専門店（経営者）	・当地域は車産業の工場が多く、昨今の円高で消費意欲が落ち込んでいる。今後しばらくは良い状態が戻らない。
衣料品専門店（営業担当）	・不況と東日本大震災のため、今後急に売上は伸びない。

家電量販店（営業統括）	・タイの洪水、急激な円高など製造メーカーの体力を奪うことが多発している。商品供給の懸念と、販売促進施策の急減に陥るといふ危惧を感じており、販売低迷に拍車がかかる可能性がある。消費者をわくわくさせる新製品も少なく、年末商戦がどこまで盛り上がるか、不安は募る一方である。
乗用車販売店（総務担当）	・不安要因が山積して先が見えない。タイの洪水による部品供給の遅れ及び欠品による納車遅延が予想されることと、円高による景気後退が懸念され、車購入離れが起き、とても不安定な時期となる。
乗用車販売店（店長）	・東日本大震災後、やっと潤沢に復旧したところでタイの洪水と、頭打ち状態にある。従業員もモチベーションがなかなか上がらない。また政情やT P P といろいろな不安で良くなる要素がない。
住関連専門店（統括）	・景気が良くなる見込みがない。年金問題や東日本大震災など、まだまだ控えるという考え方があまり変わらない状態が続く。
一般レストラン（経営者）	・宴会需要が見込めない今、家ご飯隆盛で、家庭内食と差別化したメニューが求められている。
都市型ホテル（スタッフ）	・円高がかなり進んでいるので、その影響が徐々に始まる。
都市型ホテル（スタッフ）	・来客数が伸び悩んでおり、先の予想が全くつかない。直近の動きはあるが、先の動きが全くない。
旅行代理店（従業員）	・国内団体旅行は年明けの北海道と沖縄に集中しているため、スポットで何も無い時期を迎える。団体旅行の問い合わせは8割が年明け以降のものになる。
タクシー運転手	・これから本来ならば繁忙期に入ってくるのだが、今月のタイの洪水の問題や、国内的にも非常に景気が落ち込んでいる状況では、良くなるという要素がない。
通信会社（支店長）	・人気機種の数種キャリアの投入により、競争が激しくなる。また、日本メーカーの端末の動きがそれによって鈍くなっている。現在、機種変更の数が伸びていることにより、先食いをしているような状況になっている。
通信会社（営業担当）	・同業他社も顧客獲得に苦戦している。顧客獲得には工夫が必要であるため、しばらくは厳しい環境である。
通信会社（営業推進担当）	・デジタル家電の普及が一段落しており、ボーナス商戦も下火になる。
通信会社（総務担当）	・復興増税の議論や円高の影響で今後も財布のひもが緩むことはなさそうである。年末年始は有料テレビの売り込み時期でありキャンペーンも実施しているが、顧客の反応はすこぶる鈍いため、ここ数か月は期待できない。
その他サービス [学習塾]（経営者）	・前月同様、東日本大震災の影響で遠くからの生徒が来なくなり、近くの塾に通うようになっている傾向は変わらず、遠くからの問い合わせはあまりない。中学3年生の生徒も高校が決まってきているため退塾者が出ており、全体的に売上は下がっていく。
その他サービス [学習塾]（経営者）	・2学期からの入塾希望者数が前年度の2割減くらいになっている。
設計事務所（所長）	・3月11日の東日本大震災以来、仕事量が非常に増えるかと思ったら、とんでもなかった。中小、大企業が海外へ続々と工場等に移すなかで、国内で工場を新たに建てたり増築したりという話は一切ない。したがって店舗事務所も空き家がどんどん出ているのが現状であり、先行きは更に一段と厳しくなり、皆が守りに入る。
住宅販売会社（従業員）	・欧州の信用不安、福島第一原子力発電所の事故の問題が改善しないため、やや悪くなる。
住宅販売会社（従業員）	・販売エリアが放射性物質濃度が極端に高い地域として報道されたため、顧客が物件の購入や検討を見合わせる等の影響が懸念される。
悪くなる	一般小売店 [家電]（経営者） ・設備投資など話が今のところ出ていない。年末に向けての商品や、年末商戦の雰囲気も何となく沈んでいる気がする。今後どのようになるか心配である。
一般小売店 [家電]（経理担当）	・大手の電気店、メーカーなどは太陽光で売上を見込んでいるが、個人宅で実際のところメリットがどのぐらいあるのか不透明である。
一般小売店 [食料雑貨]（経営者）	・世界経済の情勢悪化もあり、将来の不安感は増幅するばかりで、消費意欲は低下する。
一般小売店 [靴・履物]（店長）	・飲食店をしている客等に話を聞くと、非常に状況が悪いそうである。東日本大震災前からそうだったが、ずっと良くない。景気が良くなるような状況が見えないため、どんどんひどくなっていくのではないかと皆心配している。

	百貨店（副店長）	・欧州の信用不安、米国経済低迷、円高、株安、先進国政治情勢の不安定さから、悪くなる。	
	コンビニ（経営者）	・1、2か月は今の状態が続くがそこで頭打ちとなり、それからいかに盛り返せるかである。	
	衣料品専門店（経営者）	・年内はやや暖かいという長期予報から、冬物商戦の苦戦とセールの前倒しが予測される。集客力の弱い商店街では売上が苦戦し、粗利益が低下する。	
	その他専門店〔服飾雑貨〕（統括）	・東日本大震災による復興特需も重なり、客単価増の影響で売上は前年比を超えても客数の動きは前年割れのため、一部のマーケットに支えられている感がある。	
	一般レストラン（店長）	・ただでさえ今はどん底なのに、線路をはさんだ向かい側の地区に新しい商業施設ができて、更にそちらに客を取られるという事態が発生する。更に悪くなり、どこまで悪くなるか分からない。	
	一般レストラン（スタッフ）	・人通りがまず少ない。	
	タクシー運転手	・タイの洪水が収まらない限り、自動車産業等生産に影響が出る。そのためにタクシー需要は必要最小限に切り捨てられるため、しばらくの間景気の回復は望めない。	
	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・過去1年の様子を見ても、短期的に上昇する要素が見当たらない。前年減はあっても前年同等以上の売上は期待できない。	
企業動向関連	良くなる	—	
	やや良くなる	—	
		食料品製造業（経営者）	・年内から正月にかけてのまとまった注文の引き合いが来ている。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・住宅エコポイントの復活などで、建築、リフォーム関連のクライアントより広告案件の引き合いが多くなっている。この流れに乗りながら年末の繁忙時期に突入し、良い方向へ推移することを願っている。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・法人関係の仕事の他に、店頭売りの個人の実印や銀行印等もあるが、そちらも同様に、わずかだがやや上向きである。1人の客が2、3本といったまとめ注文のような動きが出てきているため、少し良い。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・全体が悪いわけではなく、うまくいっている所はうまくいっている状況になりつつある。
		不動産業（総務担当）	・空室率の改善が進むなか、フリーレントの要求が高く、収入に結びつくには時間を要するものの、この先は確実に収入増につながっていく。
	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・引き続き受注が見込めるので、このまま推移していく。	
変わらない	繊維工業（従業員）	・当分は現状が続く。	
	出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・年末に向けて商用のちらしやポスターなどの受注量は例年並みに確保できると思うが、冊子やパンフレットなどの分野は依然として自粛される。発注量の減少と原材料の値上げのため、利益の確保が難しい。	
	化学工業（従業員）	・受注が少し増加したので生産量を上げたが、在庫が増えただけで販売量に変化はない。今後も同様であると思うため、変わらない。	
	プラスチック製品製造業（経営者）	・悪い状態のまま変わらない。欧州の信用不安、そして災害等が多くあり、良くなる要素がない。	
	プラスチック製品製造業（経営者）	・住宅関連部品は受注が2割ほど減少したまま2～3か月推移するとの情報が入ってる。医療容器、化粧品容器も円高の影響で顧客が様子見に入り、増産は期待できない。逆に仕入に関しては値上げの依頼が来ている。	
	金属製品製造業（経営者）	・以前の見積の仕事が決まりつつあり仕事量は増えてきたが、なお一層の合理化を考えなければ利益につながらない。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・受注量が変わらず、新しい仕事もなかなか見つからないため、変わらない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・これから冬場に入り、また節電に関する報道が増えると電気製品が売れなくなる。空調業界は電気を使う商品は敬遠され、ガスエンジン・ヒートポンプ・エアコンが見直されている。石油ストーブや練炭火鉢、湯たんぽなどがまた売れ出し、懐かしの昭和がよみがえるのかもしれない。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・業界の流れで、まとまった発注がない限りは景気が良くなるとは思えない。現在の状況を続けて、良くなるのを待つより仕方ない。	
	その他製造業〔鞆〕（経営者）	・大きく変化することは今のところ特別無いようで、安定してきている。仕事が切れない状況が続く。	

建設業（営業担当）	・建設業界の景気変動は、今後の資材高騰や政治の動きに左右される。また、T P Pの交渉へ参加するかどうかによって今後の全体の景気に影響してくる。
輸送業（経営者）	・現在の経済の流れから総合的に判断すると、景気が良くなるという様相はない。
輸送業（所長）	・会社全体としては東日本大震災の特需で出荷が伸びている営業所もあるが、それ以外の営業所では落ち込んでいる所もある。特に人材派遣部門では、受入先の人員整理で派遣人数が減っている。全体的には、まだこのまま推移していくため、景気回復にはもう少し時間が掛かる。
通信業（広報担当）	・海外経済の減速等に伴って国内経済も伸び悩むため、大きな変化は望めない。
金融業（支店長）	・取引先の受注状況は将来的な見込みとして高くなっておらず、現状とあまり変化がない。
金融業（従業員）	・地域の景況感はおおむね横ばいで推移しているが、依然として低い水準にある。製造業を中心に、円高の影響や取引先の海外シフトなどに危機感を募らせている企業もあり、業況改善の兆しを感じるにはもう少し時間を要する。
金融業（渉外・預金担当）	・現状より悪くなりようがない。業務継続はしているが現状維持に全力を挙げているだけで、現状維持ができなくなれば即退場となる可能性も高まりつつある。
金融業（役員）	・円高や電力事情の影響で大手製造業の動向が消極的であり、関連する中小企業にも影響が出てきている。地域経済をけん引する原動力がない状態である。
不動産業（従業員）	・基本的には個人の住宅地の需要は落ちないものの、企業の設備投資意欲は低調であり、変わらない。
広告代理店（営業担当）	・新規相談は多くなったものの、レギュラー定着するものが少ないため、変わらない。
経営コンサルタント	・年末商戦に入って少しは良くなると思うが、製造業では円高やタイの洪水の影響がじわじわと出てくる。
社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
経営コンサルタント	・世界規模での経済不安の影響が出てくる。
経営コンサルタント	・経済の国際化で、景気の動向も複雑な要素が絡むようになってきている。欧州の信用不安一つ取ってみても、時間がかかりそうである。企業経営者も生活者も、先読みの難しさに困惑している状態はまだ続く。
税理士	・明るい材料は見当たらない。
その他サービス業 [情報サービス]（従業員）	・今後2、3か月先くらいでは景気が良くなったり悪くなったりする要因が見当たらない。今後もこのまま変わらず、若干の好調が続く。
やや悪くなる	
出版・印刷・同関連産業（経営者）	・固定化されている受注品目以外、新規受注が期待できる要因が見当たらない。
金属製品製造業（経営者）	・円高による加工単価値下げの協力依頼が出てきている。また、相次ぐ自然災害により先行きが見えなくなっている。
輸送業（経営者）	・今年も年末年始の特需は望めそうもなく、現状が維持できれば良いほうである。ここ数年の売上の推移から、2、3か月先の状況は厳しいものがある。
金融業（支店長）	・取引先の会社関係の客によると、先行きの見通しがまだつかない、売上減、利幅減ということで、今後かなり悪くなっていくのではないかということである。
広告代理店（経営者）	・今月の雰囲気と同じ路線にある。期が改まるのをとり合えず待つしかない。
広告代理店（従業員）	・売上が増える予定がなく、前年同月の売上を確保できる見通しが無い。
広告代理店（従業員）	・タイの洪水で車の部品等に影響が出て、自動車販売に影響し、宣伝等も若干自粛になりそうである。
その他サービス業 [映像制作]（経営者）	・年末を迎え良くなる要素が見付からない。むしろ円高や不安定な要素が多く、発注も例年に比べて控えるのではないかと懸念している。
その他サービス業 [廃棄物処理]（経営者）	・タイの洪水の影響ばかりでなく、欧州の信用不安を始めとした欧米の先行きに対する懸念が依然として大きく、低迷状態がしばらく続きそうである。
その他サービス業 [ビルメンテナンス]（経営者）	・時期は分からないが減額要請が来ている物件があるため、先行きは悪くなる。

	悪くなる	金属製品製造業（経営者）	・海外向けがけん引してきていた製造業は、海外が悪くなっているため受注量が伸びてこない。国内向けも一部、被災地向けの受注が増えているが、根本的に国内の需要は多くないため、海外向けが増えてこない受注量は増えない。中国の景気や円高を考えると、良くなるとは思えない。
		一般機械器具製造業（経営者）	・来月一杯で月に5万個流れているものがアメリカに行ってしまうため、売上は落ちる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・円高、欧州の信用不安、タイの洪水被害による減産とマイナス要因のほうが多い。
		建設業（経理担当）	・年末年始に向けての新築がらみの商談がなく、この先不透明である。
		輸送業（経営者）	・同業者と会ってもお互いに仕事がないかという話ばかりで、どこへ行っても仕事をくれる業者がおらず、頭を悩ませている。これから先どうなるかは全く分からない。
		輸送業（総務担当）	・東日本大震災の復旧、復興の需要による出荷が当分望めない状態であり、輸出に関しても一向に進まず、この状態が当分続く。また、ここに来て燃料が高値で推移している。経営環境はすべてにおいて更に厳しい。
		金融業（支店長）	・タイの洪水による被害が深刻化し、部品メーカー等の生産に影響が出る。
		その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・円高株安の影響で来年度の予算組みが厳しくなるため、悪くなる。
雇用 関連	良くなる	—	—
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・契約開始数、終了数があまり変わらず、就業人数の増減がない状態が続いているが、前年ほどではないものの、年末に向けて販売を中心に短期採用が増加している。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・求人数の動きが増えてきているため、やや良くなる。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・年明けに新たな増産や営業所増などという企業が幾つかあるので、その注文を確実に受ける。また、年末の期間限定の募集を確実に取ることで、何とか少し増える。
		職業安定所（職員）	・今後は欧米の景気失速が懸念材料であるが、今月、新規求人倍率、有効求人倍率が共に最高を記録したことを考えれば、一時的に新規求人が落ち込むことがあっても2～3か月のスパンで考えると良いほうに振れる。
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・求人依頼のため企業訪問を行っている。東日本大震災以降、厳しい状況が何か月も続いたが、9月以降は前年並みに売上を伸ばしてきたとの話だったので、良くなっている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・今月になって円高が更に進んでいる。製造業では非常に心配しており、良くなる兆候はないと言っている。
		人材派遣会社（営業担当）	・現状の求人数は数か月前に比べて若干増加傾向にあるが、雇用が回復傾向にあるという程度である。
		人材派遣会社（支店長）	・東日本大震災や台風対応業務での増員は契約終了の可能性はあるが、太陽光発電エネルギー関連等の受注が見込まれる。
		人材派遣会社（営業担当）	・雇用が増えない限りは景気が回復するとは思えない。年末に向けて雇用は横ばいの印象である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・採用を増やす企業には偏りがあり、全般的に新卒採用には慎重姿勢の企業が多いため、変わらない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・9月には製造業のパート募集など、東日本大震災復興の兆しを思わせるような動きが求人企業に見られたものの、その勢いは持続しないようである。相変わらず求人件数は右肩上がりには伸びない。
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・取引減と取引増のバランスが取れてしまっており、増加の見込みが立たない。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・中途採用の採用数は新卒に比べるとまだ全然数が少ないため、企業の新卒採用が復活しないと本物とは言えない。さらに東日本大震災、円高、タイの洪水と、次々にマイナス要因が降りかかって、新卒採用はかなりのブレーキが掛かる。
		職業安定所（所長）	・東日本大震災による復興需要が一段落する。タイの洪水による被害、欧州の信用不安等、不安要素が多く、今より良くなるとは思えないが、急激な悪化にまでは至らない。
		職業安定所（職員）	・10月の初めには一時的に新規求職者が増加したが、月末には減少している。就職件数が上がっているわけでもなく、紹介件数も伸び悩んでいる。マッチングできる求人が少ないため、先行きも全く見えてこない。
		職業安定所（職員）	・円高が続いており、先行きに不透明感があることから、企業が採用に慎重になっている。タイの洪水によるサプライチェーンの混乱で先が見えない状況が続いているため、景気は変わらない。

	民間職業紹介機関（経営者）	・生産を維持する状況はいろいろと難しくなっているようである。技術開発や営業、一部の管理関係はニーズがあり必要性もあるようだが、その他については非常に消極的な動きになっていく。
	民間職業紹介機関（職員）	・求人絶対数は少なくないものの、増加率は落ちており、こじばらくは様子見の状態となる。
	民間職業紹介機関（職員）	・米欧の状況や株安、円高により金融業界が少し影響を受けだしている。ニーズはあるものの求人数が横ばいになりつつあり、難易度が上がっていくことが想定されるが、メーカーがどう判断をしていくかが見えない。
	学校〔専修学校〕（就職担当）	・今後の求人獲得数見込みは、当初予定されていた採用計画から増加する傾向は見られず、新卒採用については依然厳しい状況が継続する。
やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・年度末に向けての繁忙依頼は徐々に出てきているが、期間限定の依頼のため、長期的な業績の好転にはつながらない。
	職業安定所（職員）	・雇用調整の事業所が増加している。
	職業安定所（職員）	・零細企業においては円高等、経済動向の様子見している事業所も多い。
悪くなる	—	—